

第22回 ヨウ素学会シンポジウム

- ◆ 日時 : 2019年8月30日(金) 9:20~17:10
- ◆ 場所 : 千葉大学 西千葉キャンパスけやき会館
- ◆ 主催 : ヨウ素学会
- ◆ 共催 : 千葉大学、(公社)日本化学会、日本ヨウ素工業会
- ◆ 協賛 : (公社)日本薬学会、(公社)有機合成化学協会、
(公財)千葉県産業振興センター、(一社)千葉県製薬協会、千葉工業大学
千葉大学ソフト分子活性化研究センター

<I部~IV部: 講演> けやき会館大ホール

No.	予定時間	分類	講演テーマ	研究発表者	所属団体
	9:20~9:25	挨拶	加納博文 会長		
I部: 座長 (海宝龍夫)					
①	9:25~10:05	招待講演	Assembly of Nanostructures by Halogen Bonding Interactions of Complementary Macromolecules	Mark S. Taylor	University of Toronto
II部: 座長 (高原 茂)					
②	10:05~10:20	一般講演	ハロゲン結合を有する超分子ポリマーネットワークの形成に向けて	○諸田優大・Kira B. Landenberger	京大院工
③	10:20~10:35	一般講演	土壌試料からのヨウ素耐性菌の分離	○矢野成和・荻原 隼・柚木崎航平・佐藤貴弘	山形大院理工・伊勢化学工業
④	10:35~10:50	一般講演	ヨウ素含有ペロブスカイト量子ドット発光デバイス	○江部日南子・千葉貴之・増原陽人・城戸卓二	山形大院有機シス
III部: 座長 (松本祥治)					
⑤	10:50~11:30	招待講演	単層カーボンナノチューブに内包されたハロゲン関連分子の電気化学反応	川崎晋司	名工大院工
IV部: ポスター発表 ショートスピーチ					
	11:35~12:35	27件×2分:60分(交替時間含)			

<V部: ポスター発表、企業展示> けやき会館3階レセプションホール

*時間 ; 展示 開場時~14:45.....発表と質疑 (13:30~14:45)		
ポスター発表	発表件数 48件	物理化学、有機化学、触媒化学、生物活性、利用、応用、実用品の開発と製品紹介 など
企業展示		ヨウ素製品等の展示、ヨウ素分析機器等の展示 (時間; 随時)

<VI部~VIII部: 講演> けやき会館大ホール

	14:55~15:00	特別賞授賞式 (受賞者:石川 勉)			
	15:00~15:05	学会賞授賞式 (受賞者:柴田哲男)			
VI部: 座長 (北村二雄)					
⑥	15:05~15:45	受賞講演	フッ素化合物の精密合成を実現する有機ヨウ素反応剤, 触媒および反応の開発	柴田哲男	名工大院工
VII部: 座長 (森山克彦)					
⑦	15:45~16:00	一般講演	ヨウ素酸化剤を活用したスルファマートエステルの分子内C-Hアミノ化	○中村彰悟・清川謙介・南方聖司	阪大院工
⑧	16:00~16:15	一般講演	超原子価ヨウ素を用いた脱炭酸型アシル化法の開発	○南條 毅・加藤夏己・吉川広祐・竹本佳司	京大院薬
⑨	16:15~16:30	一般講演	ハロゲン結合能を持つチアゾロ[2,3-a]イソキノリニウム塩のヨウ素蒸気による電気伝導性発現	○松本祥治・隅田竜太・赤染元浩	千葉大院工
VIII部: 座長 (石原一彰)					
⑩	16:30~17:10	招待講演	Hypervalent Iodines in Fluorination and Trifluoromethylation Reactions	Kálmán J. Szabó	Stockholm University

※各講演時間は、質疑応答の時間5分を含みます。

17:30~19:00	懇親会 (けやき会館レセプションホール)
-------------	----------------------

ポスター発表プログラム

会場：千葉大学 けやき会館3階レセプションホール ー開場8時45分 発表と質疑13時30分～14時45分
番号前に「S」がある発表は、ショートスピーチ予定

No.	発表タイトル	〇発表者・研究者	所属団体
01	KaohChreng 島における甲状腺腫の女性の婦人科症状の有病率	〇下嶽ユキ・小出浩久・吉田匠悟	高知大環境医学
S02	超音波粉碎加工技術によるヨウ素含有赤色発光ペロブスカイトナノ結晶の作製とデバイス特性評価	榎本純哉 ¹ ・佐々木大輝 ² ・〇梅本和輝 ² ・手塚優樹 ² ・江部日南子 ³ ・高橋佳人 ³ ・千葉貴之 ³⁴ ・浅倉 聡 ²⁵⁶ ・増泉陽人 ²	¹ 山形大工・ ² 山形大院理工・ ³ 山形大院有機シス・ ⁴ 山形大有機エレ研・ ⁵ 伊勢化学工業・ ⁶ 千葉ヨウ素資源イノベーションセンター
03	単層カーボンナノチューブを利用したハロゲンイオン電池・キャパシタ	〇伊達怜実・高橋実夏子・石井陽祐・川崎晋司	名大院工
04	ヨウ素化合物のハロゲン結合を用いた単層膜への積層	〇神田理紗 ¹ ・海宝龍夫 ² ・高原 茂 ¹	¹ 千葉大院融合・ ² CIRIC
S05	単斜晶系の層状複水酸化物を用いた水溶液からのハロゲン化物イオン除去	〇手束聡子	千葉科学大
S06	ヨウ化物イオン及びヨウ素酸イオンの定量分析方法	〇小松 誠・佐久間貴志・出水丈志	荏原製作所
07	燃焼イオンクロマトグラフィーによる有機試料中のヨウ素の分析	〇長嶋 潜・堀田哲男	ナックテクノサービス
08	ドデシルアンモニウム吸着 C18 逆相カラムを用いたイオンクロマトグラフィーによる河川域のヨウ素の定量	〇竹田一彦 ¹ ・石井秋徳 ¹ ・岩本洋子 ¹ ・伊藤一明 ²	¹ 広島大院統合生命科学・ ² 海水評価技術研
S09	ヨウ素とヨウ化物イオンにおける induced dipole 相互作用	〇柳田祥三 ¹² ・吉川 整 ¹ ・木田敏之 ²	¹ M3 研究所・ ² 大阪大学
S10	超原子価ヨウ素触媒を用いる N-プロパルギルアミド誘導体の環化異性化ーカップリング反応	〇馬越優貴・竹本優介・齊藤亜紀夫	東農工大院工
11	超原子価ヨウ素試薬を用いたヒドロキシカルコンのクロロメトキシ化反応とそれを利用したベンゾフラン合成	川島紀香・中岡玖美・岡村杏子・中村 光・〇前川智弘	近畿大薬
S12	超原子価ヨウ素試薬を利用したカルコン類の転位反応によるインドール及びベンゾフラン類の合成	〇中村 光・今宮彰良・饒 非・池上裕一朗・前川智弘	近畿大薬
S13	超原子価ヨウ素を用いた連続反応によるらせん不斉を有するポリアザヘリセン類の簡便合成	〇笹山卓真 ¹ ・岩清水千咲 ¹ ・大谷 卓 ² ・キャロ ステイヴィン カニヴァ ³ ・柴田高範 ¹	¹ 早大先進理工・ ² 阿南高専化学・ ³ 早大国際理工センター
S14	オルトアルコキシ置換 (ジASETキシヨード) アレーンを用いたインドール誘導体のアミノ化反応を鍵とする位置選択的三重官能基化	〇渡辺和寛・森山克彦	千葉大院理
S15	アルキニル超原子価ヨウ素を用いた銅触媒的イナミド合成法の開発	〇高井亮吾・多田教浩・山口英士・伊藤彰近	岐阜薬大院
S16	エチニルベンゾヨードキソロンを用いる cis-β-アミドビニルベンゾヨードキソロンの合成に関する研究	〇新保大輔・多田教浩・山口英士・伊藤彰近	岐阜薬大院
S17	超原子価ヨウ素化合物を用いたエステル合成法としてのオキシカルボニル化反応の開発	〇木野村月南・多田教浩・山口英士・伊藤彰近	岐阜薬大
S18	ヘテロアリール超原子価ヨウ素を志向した 2-ヨード-3-カルボキシルピロールの合成	〇米田友貴 ¹² ・根矢三郎 ²	¹ 北大院工・ ² 千葉大院薬
19	可視光活性型超原子価ヨウ素の合成	〇長澤 翔 ¹ ・中島誠也 ¹² ・根本哲宏 ¹	¹ 千葉大院薬・ ² 理研
S20	キラル次亜ヨウ素塩触媒を用いるインドールの極性転換及び不斉脱芳香族化反応	〇田中啓貴・請川直哉・ウヤスク ムハメット・石原一彰	名大院工
21	キラルホスフィン・銀アルコキシド触媒を用いたアルケニルエステル類の不斉 α-アジド化反応	〇井上佑芽 ¹ ・渡邊孝道 ² ・柳澤 章 ³	¹ 千葉大理・ ² 日宝化学・ ³ 千葉大院理
22	キラルスズアルコキシド触媒を用いた β-ケトエステル類の不斉 α-アジド化反応	〇高城幸太郎 ¹ ・海老原徹 ¹ ・ラッセル 豪 マーティン ¹ ・堀口萌恵 ² ・渡邊孝道 ³ ・柳澤 章 ²	¹ 千葉大理・ ² 千葉大院理・ ³ 日宝化学
23	ハロゲン結合ドナー型ヨウ素触媒を用いた不斉マンニッヒ型反応の開発	〇西田有希・鍛野 哲・荒井孝義	千葉大院理
24	ハロゲン結合供与型ヨウ素触媒を用いる 2-アルケニルインドール誘導体の[4+2]環化付加反応	〇鍛野 哲 ¹ ・鈴木拓己 ¹ ・山中正浩 ² ・堤 亮祐 ² ・荒井孝義 ¹	¹ 千葉大院理・ ² 立教大理
S25	Lewis 塩基触媒を用いるヨードラクトン化反応におけるヨウ素の添加効果	〇堀部貴大・辻 泰隆・石原一彰	名大院工
26	ジスルフィドをルイス塩基触媒として用いる芳香族ヨウ素化反応の開発	〇石田俊亮 ¹ ・飯田圭介 ¹ ・渡邊孝道 ² ・荒井孝義 ¹	¹ 千葉大院理・ ² 日宝化学
S27	コバルト触媒による含窒素複素環形成反応におけるヨウ化物イオンの効果	〇岡本和紘・松下 岳・大江浩一	京大院工

No.	発表タイトル	○発表者・研究者	所属団体
S28	ヨウ素の特性を活かした有機触媒酸化法の開発に基づく青色色素のメタルフリー合成	○山本結生・董春萍・小玉晋太郎・野元昭宏・植島陸男・小川昭弥	阪府大院工
S29	分子状酸素を酸化剤として用いたフラビニウム-ヨウ素触媒によるピラゾロンの酸化的スルフェニル化反応	○谷本和雅・大門竜馬・飯田拡基	島根大院自然科学
S30	ヨウ素をメディエーターとするHF反応剤によるアルケン類のフッ素化反応	○河本龍一 ¹ ・小山田重蔵 ¹ ・北村二雄 ¹ ・東昌弘 ² ・岸川洋介 ²	¹ 佐賀大理工・ ² ダイキン工業
S31	安価な原料として α -アミノ酸とアミンを用いたヨウ素触媒による4-イミダゾリジノン類の不斉合成	○多根真理菜 ¹ ・カニヴァ ステイヴイン キャロ ² ・柴田高範 ¹	¹ 早大先進理工・ ² 早大国際理工学センター
32	ニトリル誘導体からイミニラジカル中間体を経由したキノリン誘導体への新規合成法開発	○成登大貴・東郷秀雄	千葉大院融合
33	イミノラジカルを経由した α -アロイルピアリール類から6-アロイルフェナンスリジン誘導体のワンポット反応の開発	○小林栄司・岸篤志・東郷秀雄	千葉大院理
34	単体ヨウ素を用いた芳香族臭化物及びアレーン類から芳香族ニトリルの新規合成	○内田 滉・東郷秀雄	千葉大院理
S35	ヨウ化水素による共役エノンおよび α,β -不飽和カルボン酸誘導体の選択的還元反応	○丸本颯人 ¹ ・赤染元浩 ¹ ・大谷康彦 ² ・海宝龍夫 ² ・松本祥治 ¹	¹ 千葉大院工・ ² 合同資源
S36	ヨウ化セレンニルを用いたアルケンのアミノセレン化反応の開発	○石川 陽・佐瀬祥平・後藤 敬	東工大理
S37	ヨウ化セレンニルによるアルケン活性化を活用したポリエン類の連続環化反応の開発	○仲田孝明・佐瀬祥平・後藤 敬	東工大理
38	ヨードホルム及びジヨードメチル <p>-トリルスルホンとα,β-不飽和カルボニル化合物のシクロプロパン化反応の機構考察</p>	○田村佳保里 ¹ ・松本祥治 ¹ ・赤染元浩 ¹	¹ 千葉大院工・三井化学
39	環状チオアミジウム塩および環状イミダゾイソキノリニウム塩の求核試薬に対する反応性	○綿貫祥汰・高田大貴・赤染元浩・松本祥治	千葉大院工
S40	ペルフルオロアルキル基を有する有機ヨウ素化合物の制御ラジカル重合開始剤としての評価	○上野真菜美 ¹ ・神原 将 ² ・矢島知子 ¹	¹ お茶大院・ ² ダイキン工業
S41	カルボニル基を有する新規ヨードトリアゾリウム塩の合成法開発	○原口亮介 ¹ ・剣持智志 ² ・早川峻輔 ¹ ・秋元丈志 ¹ ・阿保隼人 ² ・鳥田康樹 ² ・福澤信一 ²	¹ 千葉工大院工・ ² 中大院理工
42	ルイス酸性を有する新規ハロニウム塩の開発と応用	○長谷川知輝・吉田泰志・石川聖太郎・三野 孝・坂本昌巳	千葉大院工
43	ハロゲン結合を誘引するフルオロ官能基化ヨードベンゼン誘導体の設計	○佐々木健太・住井裕司・柴田哲男	名工大院工
S44	新規 π 拡張型ペルフルオロヨードアレーンの合成と応用	○大塚尚哉 ¹ ・杉浦 聡 ¹ ・大田陽野 ^{1,2} ・鈴木敏泰 ¹ ・榎山儀恵 ^{1,2}	¹ 分子研・ ² 総研大
45	ハロゲン結合を鍵とする高分子固定化求核触媒の開発	○堀 達暁 ^{1,2} ・榎山儀恵 ^{1,2}	¹ 分子研・ ² 総研大
46	ヨウ素化合物をハロゲン結合ドナーとして用いる発光材料の開発	○吉越裕介 ¹ ・山川健司 ² ・王子嘉 ^{1,2} ・金井 求 ² ・國富洋一郎 ¹	¹ 九大先導研・ ² 東大院薬
S47	ヨウ素原子を有するジベンゾイルメタナート-BF ₂ 錯体結晶の発光特性	○阿利拓夢 ¹ ・山本 俊 ¹ ・酒井敦史 ¹ ・飯田洋輝 ² ・小澤芳樹 ² ・阿部正明 ² ・松井康哲 ^{1,3} ・太田英輔 ^{1,3} ・池田 浩 ^{1,3}	¹ 阪府大院工・ ² 兵庫県立大院物質理・ ³ 阪府大 RIMED
S48	ヨウ素-ヨウ素相互作用を活用した非対称チエノアセン系トランジスタ材料の分子配向制御	○松永 周 ¹ ・小川雄太 ¹ ・熊木大介 ² ・時任静士 ² ・片桐洋史 ^{1,2}	¹ 山形大院理工・ ² 山形大院有機

会場案内



お問い合わせ先

ヨウ素学会事務局

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学 千葉ヨウ素資源イノベーションセンター内

TEL/FAX : 043-290-3402

E-mail : sis@fiu-iodine.org